

【国際関係学部】令和6年度 FD 活動の「年間報告」

1. 学部独自の FD 活動についての報告（*は必須項目）

(1) 公開授業・ワークショップ

①公開授業：レポート課題における生成 AI の活用

- ・科目：国際協力実務論
- ・担当教員：三田貴教授
- ・実施日時/場所：10月16日（水）教授会後
- ・*参加人数 14名

②ワークショップ：レポート課題における生成 AI の活用

- ・*参加人数 14名
- ・ワークショップでの意見交換内容

報告・授業実践事例公開の部分では他大学での取り組みを知るために、はじめに立命館大学における実践例及び University of Saskatchewan における生成 AI 利用指針例の動画を視聴した。その後、三田教授が自身で実施した「国際協力実務論 I」での活用例を公開・解説した。具体的には、「ChatGPT を用いて開発問題に関する提案を作成する」という実習の効果と課題を、実際に作成された報告書を取り上げながら論じた。

報告をもとにして、その後のグループディスカッションでは、生成 AI の利用に対する肯定的及び否定的意見の双方が出された。利用上の課題としては、「一定程度の学力を持った学生には有益であるがそうではない学生には逆効果である」「国際関係学という本来習得すべき内容の指導よりも技術的指導の比重が高まることを懸念する」「成績評価の手段としてレポート課題を課すことが難しくなった」などの意見が出された。多くの課題・問題点が議論されたが、現時点では明解な解決策を見出すことは難しく、今後の技術発展や高等教育での対応状況を注視していくということで暫定的な結論に達した。

(2) その他研修会等

- ・テーマ：基礎演習・発展演習担当者会議
- ・概要：基礎演習・発展演習の担当者間での指導内容の検討・振り返り、情報共有
- ・実施日：春学期 2024 年 4 月 2 日、秋学期 2024 年 9 月 5 日
- ・*参加人数 11 名（職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください）

- ・テーマ：「90 分相当のオンデマンド授業」に関する基礎演習・発展演習担当者会議
- ・概要：「90 分相当のオンデマンド授業」の内容の検討
- ・実施日：2024 年 12 月 18 日
- ・*参加人数 11 名

- ・テーマ：英語科目の新カリキュラムについて
- ・概要：2025 年度から開始する新カリキュラムの内容について
- ・実施日：2024 年 4 以降複数回
- ・*参加人数 4 名

- ・テーマ：英語科目担当者会議
- ・概要：非常勤講師を含めた、英語科目担当者間での指導内容の検討・情報共有
- ・実施日：2024 年 月 24 日
- ・*参加人数 9 名

- ・テーマ：2025 年度英語科目担当者会議
- ・概要：新規非常勤講師を含めた、英語科目担当者間での指導内容情報共有
- ・実施日：2025 年 2 月 23 日
- ・*参加人数 10 名

2. 総括（今年度の学部 FD を通して得られた気づきや見つかった課題等）

生成 AI の技術進化が急速に発展し、文章生成などの能力・精度が一層の向上を遂げている。国際関係学部では論文やレポートにおける剽窃を防止するために、2023 年から 2024 年度まで剽窃防止チェックツールを試験的に導入したが、生成 AI で生成された文章はこうしたツールを使用してもチェックが困難になっていることが指摘されるなど、生成 AI の使用自体を防ぐことは極めて難しくなっている。大学教育においては、生成 AI の活用と同時に一定のルール作りが急がれてきた。しかし、2024 年度の FD における意見交換でも明らかになったように、生成 AI の大学教育への活用には賛否両論あるのが現状である。一点明らかになったのは、生成 AI の活用の是非を論じるためには、教員自身の生成 AI 技術に関するアップデートが常に必要であることである。今後も引き続き高等教育における生成 AI 活用についての情報共有を、FD 等を通じて行う必要がある。

3. 次年度に向けての取り組み

- ・授業や課題における生成 AI の活用方法については、次年度は専門科目の国際英語科目で継続して議論する。
- ・学修者の主観的評価と客観的評価との整合性を確認し、アセスメント科目の評価基準と評価方法の検討を行う。
- ・課題解決型の授業の指導方法・評価方法を検討する。

※この内容は当該年度終了後、本学における FD 活動の一環として、本学 HP に掲載します。